

絆育む食事のあり方探る

市民ら
が協議
陸前高田市未来図会議

陸前高田市未来図会議は14日、高田町のコミュニティホールで開かれた。今回は、初めて「食」をテーマに設定し、市民らがお茶っこ会を通じて絆を育んでいる地域の事例を踏まえつつ、会話を弾ませ、交流を深める場ともなる食事のより良いあり方などを探った。

この日は約50人が参加。事例発表では、米崎町高畑の嶋村千代子(80)ら4人が、

同会議は、「はまっで(仲間に入って)かだる(話す)」場を増やし、市民が互いに心を通わせる「はまっでけらいん、かだっけらいん運動」(略称、はまかだ)を推進し、同市が掲げる「ノーマライゼーション」という言葉のいらないまちづくり」を実現しようと立ち上げられた。

昨年度まで保健・医療・福祉分野の関係者が定期的に集い、「は



事例発表も行われた未来図会議

月に1度開いている「お茶飲み会」の意義について紹介した。嶋村さんは、平成22年2月に活動を始めたきっかけに触れ、「近所の方々と一緒に食べながら話す」と自然といろんな話題が生まれ、そうやってみんなと話すのがストレス解消にもつながり、楽しいのだと気付けられた」と語った。

続いて、小友町の農業・村上さおりさん(49)は、コメの栽培体験など他団体と連携しながら行っている地域の子どもたちとの交流活動について紹介。健康的な生活を送るため、「食」の重要性も伝えられた。

その後は、参加者が「おいしく食べるごはんとは」などをテーマにグループワークを行った。

次回は、来年2月15日(金)午後1時30分から、コミュニティホールで開催する予定。